



浜通り地域等の産業基盤を  
構築する国家プロジェクト

# 福島イノベーション・ コースト構想



Fukushima  
Innovation Coast  
Framework

集う、創る、叶える、ふくしまで。



福島イノベ機構



# 主要プロジェクトの具体化を進めるとともに 実現へ向けた基盤整備に取り組んでいます。

廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙の各分野の具体化を進めるとともに、その実現へ向けた産業集積や人材育成、交流人口の拡大、情報発信、生活環境の整備など多岐にわたる基盤整備に取り組んでいます。



Fukushima  
Innovation Coast  
Framework

## 福島イノベーション・コースト構想の実現に向けて

### 3つの取組の柱

- ①あらゆるチャレンジが可能な地域 ②地域の企業が主役 ③構想を支える人材育成

## 新たな産業基盤の構築

### 拠点の整備及び研究開発の推進



#### 【廃炉】

- ・廃炉研究拠点の活用
- ・廃炉に向けた研究開発、人材育成



#### 【農林水産業】

- ・ICTやロボット技術を活用した農林水産業の実践



#### 【ロボット・ドローン】

- ・福島ロボットテストフィールドを中核とするロボット産業の集積
- ・ロボット・ドローンの開発・実証



#### 【医療関連】

- ・医療関連産業の集積による地域課題の解決



#### 【エネルギー・環境・リサイクル】

- ・先端エネルギー関連産業の創出
- ・環境・リサイクル産業の集積と事業実証



#### 【航空宇宙】

- ・航空宇宙産業への新規参入支援と技術の高度化



#### 実現に向けた取組1

### 産業集積



全国一の優遇制度や立地環境を現地視察ツ



事業化を目指す企業に対する各種コンサルティング(伴走支援)

#### 詳しくは

17～20ページへ  
企業誘致と地域内外企業のマッチングを推進



PRするための企業立地セミナー、アーを実施



構想の異業種間の連携、地域間の連携、地元企業と進出企業との連携による新事業の創出や取引の拡大を目指して「福島イノベ倶楽部」を設立



#### 実現に向けた取組3

#### 詳しくは

23～24ページへ

### 交流人口の拡大

地域と連携して新たな魅力を創造



あすびと福島(南相馬市)とワンダーファーム(いわき市)に構想を発信する拠点を設置



浜通り地域等について「来て」「見て」「知って」いただくためのツアー



#### 実現に向けた取組4

#### 詳しくは

23～25ページへ

### 情報発信

構想の認知度アップで参画を促進



構想の取組を広く発信するためのシンポジウム



複合災害の記録と教訓を将来に引き継ぐ施設「東日本大震災・原子力災害伝承館」



#### 実現に向けた取組2

### 教育・人材育成

浜通り地域等の未来を担う若力を育てる

詳しくは  
21～22ページへ

大学



浜通り地域等で活動する県内外の大学によるワークショップ(「復興知」事業)



近畿大と川俣町の連携により行われた「かわまたの花アンスリウム×近大アート展」

高校・小中学校



日本の農業が抱える問題解決に向け、ロボットやICT技術を利用した最新のスマート農業を学習(磐城農業高校×樹アルサ)



最先端のロボットについての講座を通して、ロボットに関わる産業や職業への興味・関心を向上(小高中学校×日大工学部)



#### 実現に向けた取組5

#### 詳しくは

26ページへ

### 生活環境の整備

安心な暮らしに必要な環境を整備



2020年3月にR常磐線が全線運転再開



2019年7月にイオン浪江店が浪江町にオープン



国内外の英知を結集した技術開発

# 廃炉

浜通り地域等の復興に必要な廃炉を進めるため、国内外の英知を結集し、研究開発と人材育成を進めるとともに、取組の効果を産業面にも波及させ、浜通り地域等に産業の集積を図ります。



原子炉建屋内部の作業計画の検討・訓練等を可能にする

## 楢葉遠隔技術開発センター（楢葉町）

日本原子力研究開発機構では、廃炉作業等に必要となる技術開発を進めています。その中の一として、福島第一原子力発電所の現場にいる感覚を、VR技術を用いて体験できるシステムを提供しています。このシステムを通じて、原子炉建屋内部の作業計画の検討・訓練等を行うことが可能です。

廃炉を進めるための分析を行う

## 大熊分析・研究センター（大熊町）

放射性物質分析・研究施設第1棟は、廃炉を進めるために、事故で発生したガレキ類、焼却灰、水処理二次廃棄物等の分析を行う施設です。2020年度末頃の運用開始に向け現在建設中です。



国内外の英知を結集する拠点

## 廃炉国際共同研究センター（富岡町）

国内外の大学、研究機関、産業界等の人材が交流できるネットワークを形成しつつ、産学官による研究開発と人材育成を一体的に進める体制を構築して、原子力発電所の廃止措置を推進します。



## 取組事例紹介

### 廃炉ロボットシステムを応用した技術開発



作業従事者の子どもたちが描いた絵でラッピングしたバスを、遠隔操作室として利用しています。

(株)エイブルは、福島第一原子力発電所の長さ120mもの排気筒の解体工事を、遠隔操作によるロボットシステムを利用して行っています。これまで蓄積してきた知見を活かし、廃炉における応用的な作業を担うだけでなく、ロボット活用の分野をますます広げています。

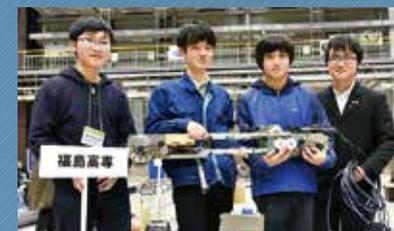
### 地元企業の参入を促進

廃炉関連産業の元請企業と参入意欲のある地元企業とのマッチング会及び個別マッチングを通して、参入のきっかけをつくる等の支援を行います。



### 廃炉を担う人材育成

#### 廃炉創造ロボコン



廃炉をイメージしたロボットの製作を通して、学生の廃炉に関する興味喚起と創造性の涵養を図ります。

#### 地元高校生の廃炉作業体験



原町高校





最先端のロボット開発・実証の地

# ロボット・ドローン

福島ロボットテストフィールドを始め、「浜通りロボット実証区域」では、災害対応や物流・インフラ点検等の分野で活用が期待されるロボットやドローンの研究開発・実証試験を積極的に呼び込んでいます。



○福島県立福島工業高校  
電気科の教諭と生徒によるドローン操縦の習熟訓練を屋外試験準備場で実施しました。



○福島県 消防訓練  
県内の4消防本部が合同の消防訓練を試験用トンネルと市街地フィールドで実施しました。



○走行型高速3Dトンネル点検システム(パシフィックコンサルタンツ(株))  
カメラやレーザー等の計測システムを搭載し、走行しながらインフラ点検を行う特殊車両の性能検証を、試験用トンネルで実施しました。



○都立墨東病院  
ドローンによる輸血用血液の輸送実証を南相馬滑走路で実施しました。

震災以降  
浜通り地域等へ  
49のロボット  
事業者が  
新規進出

	進出事業者	新規参入の 地元企業者数	合計事業者数		進出事業者	新規参入の 地元企業者数	合計事業者数
ドローン	21	8	29	災害対応・廃炉ロボ	9	1	10
固定翼 無人航空機	3	0	3	農業用ロボ	2	0	2
空飛ぶクルマ	2	0	2	産業・業務用ロボ	2	4	6
自動走行	4	1	5	介護・リハビリ・ コミュニケーション	6	0	6

東日本大震災以前はなかったロボット事業者が、49事業者の新規進出、地元14事業者の新規参入により、浜通り地域等にロボット事業者の集積が着実に進んでいます(令和2年2月現在)。

## 取組事例紹介

### 大学の取組



会津大学は、福島ロボットテストフィールド内研究室に入居し、ロボットに関する研究開発及び産学連携の推進に加え、福島県のロボット産業及び人材の育成活動を行っています。

### 地元のサポート体制



株式会社サポート南相馬は、地元の産業支援機関として福島ロボットテストフィールド内にスタッフを常駐させ、入居及び利用企業と地元企業とのマッチングなど、新しいビジネスに繋がる支援を行っています。

### 地元企業の取組



(株)東日本計算センターは、気象観測に向けた高高度3次元隊列飛行システムの開発を行っています。今後は風況調査、広域空撮・点検、防災分野などへの展開を予定しています。

## ◆ 対談

### 進出企業と地元企業がタッグを組み 固定翼型ドローンを共同開発



福島イノベーション・コースト構想に関する事業の実用化に向けた補助金をきっかけに、南相馬市に進出してきた航空技術をコアとするテクノロジーカンパニー「スペースエンターテインメントラボラトリー」。代表取締役で

CEOの金田さんは、南相馬市でドローンの開発を進めるため、連携できる地元企業を探していたところ、紹介されたのが設計から加工、納品まで、“一品もの”の設備を製作する協栄精機の代表取締役、佐藤さんでした。

#### 地元のネットワークを生かし製品開発

金田 手づくりの試作機で性能は確認できたものの、社員はものづくりの経験がなく、品質向上という課題を抱えていた時に、コーディネーターの方から紹介していただいたのが佐藤社長でした。佐藤 そうですね。「固定翼型ドローンの機体を作るカーボン



屋さんを探している」「ハブとしての役割を担ってほしい」という話で、ゴルフのカーボンシャフトを作っている会社に話を持ち掛けて共同開発が始まりました。金田 南相馬市に進出して右も左も分からない状況で、佐藤さんには親身になってあら



株式会社スペースエンターテインメントラボラリー  
代表取締役CEO

有限会社協栄精機  
代表取締役

金田 政太さん × 佐藤 正弘さん  
MASATA KANEDA MASAHIRO SATO

ゆることを教えていただき感謝しております。佐藤 金田さんの人柄に惚れ込んだのが大きいですね。わが社は、設計、制御も含めてネットワークに長けているので、機体だけでなくお手伝いできる部分はずっとあると思います。例えば、モーターや制御など、地元企業には役立てる技術力が十分あると思います。今後の課題はコストだと思っております。

#### 製作者が実験に立ち会える好環境

金田 南相馬市に来て、東京に比べて格段に実験がしやすく感動しました。製作者が実験に立ち会えるのが大きなメリットですね。この環境を生かし地域に根付いた企業に成長できるよう、これから実績を積み重ねていきたいです。





# 世界に類を見ない一大開発実証拠点 ロボット・ドローン (福島ロボットテストフィールド)

陸・海・空のフィールドロボットに対応する4つのエリアからなる世界に類を見ない開発実証拠点「福島ロボットテストフィールド」。この施設を中核として、浜通り地域等へのロボット産業の集積を図ります。

## 世界中からロボット研究者がやってくる！

2020年ワールドロボットサミット開催予定  
国際的なロボット競技会である「ワールドロボットサミット」のうち、インフラ・災害対応カテゴリーを福島ロボットテストフィールドで開催します。



緩衝ネット付飛行場

滑走路

研究棟

試験用プラント

屋内水槽試験棟

風洞棟

福島ロボットテストフィールド(2020年2月現在)

試験用トンネル

試験用橋梁

## より遠くへ、より安全に。“空飛ぶクルマ”の開発を進めています



空飛ぶクルマ/SkyDriveコンセプトモデル



福島ロボットテストフィールドの開発現場



株式会社SkyDrive  
代表取締役 福澤 知浩さん

2019年度から、福島ロボットテストフィールドで有人飛行ができるエアモビリティいわゆる“空飛ぶクルマ”の開発を行っています。2020年度は飛行実験の回数を増やし、航続距離の延長、安全性の確保など、より良いものに改良していきたいと考えています。

福島ロボットテストフィールドには、日本でいちばん実証試験がしやすい恵まれた環境があり、国内のエアモビリティ、ドローンの会社が多く集まり意見交換も盛んです。この施設をフルに活用して開発を促進していきたいです。

## 取組事例紹介

### 開発基盤エリア

福島ロボットテストフィールドの中核となる研究棟の「研究室」には、全国から16の大学や企業等が入居しています(令和2年3月現在)。また、研究棟内に併設する福島県ハイテクプラザ南相馬技術支援センターは、技術相談・設備使用(加工機器、分析機器等)・試験分析など、企業に寄り添った支援を行っています。



### ハイブリッドドローンの研究開発

福島ロボットテストフィールドの研究室入居者である株式会社ロボテックスは、浪江町の福島水素エネルギー研究フィールドで製造した再生可能エネルギー由来の水素を利用して、福島ロボットテストフィールド・浪江町滑走路間13kmの往復飛行実験を重ねるなど、長時間飛行可能なドローンの研究開発を行っています。



## 陸・海・空の使用環境を再現

### 福島ロボットテストフィールド

南相馬市復興工業団地内の東西約1,000m、南北約500mの「無人航空機エリア」、「インフラ点検・災害対応エリア」、「水中・水上ロボットエリア」、「開発基盤エリア」と、浪江町棚塩産業団地内に長距離飛行試験のための滑走路を設けています。

### 福島ロボットテストフィールドのデータ

開所前 ~2018年7月20日  
開所後 2018年7月20日~2020年2月29日

#### 来訪者数



#### 浜通り実証区域における実証件数



## あらゆる災害環境、老朽化を再現 インフラ点検・災害対応エリア



## ダム、河川、水没市街地、港湾等を再現 水中・水上ロボットエリア



## 国内最大の飛行空域を備える 無人航空機エリア





先進的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ

# エネルギー・環境・リサイクル

再生可能エネルギーを核とした産業の育成・集積を図り、地域経済の復興・再生に取り組んでいます。  
太陽光パネルや石灰石等の先進的なリサイクル技術開発の取組等を推進しています。

世界最大級の再エネ水素エネルギーシステム

## 福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)

浪江町では、天候によって変動する太陽光発電の電力を水素に変え、再生可能エネルギーを有効活用する大規模な実証が行われています。また、この水素は東京オリンピック・パラリンピックを始め、様々な場面で活用を推進します。



2020年3月に開所式を開催

## 取組事例紹介

### 水素で発電する燃料電池バスを導入

新常磐交通㈱では、トヨタ自動車㈱の燃料電池バス「SORA」を東北では初めて導入し、2020年4月から運行を開始します。「SORA」は、水素と空気中の酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーでモーターを回し走行します。



### スマートコミュニティの構築

JR新地駅前周辺の公共施設等に、相馬LNG基地からの天然ガスを活用して電気・熱を供給するエネルギーシステムを構築・運用しています。



### 食品残渣バイオマス発電システムの実証・普及

共栄㈱は、いわき市内のスーパーや宿泊施設から出される食品残渣を利用したバイオマス発電の実証を行い、県内外への普及を目指しています。



### 共用送電線の整備

避難地域等における風力発電や太陽光発電等の再生可能エネルギーの大量導入を促進するため、阿武隈山地・沿岸部に全長70km超に及ぶ共用送電線を整備しています。



都路変電所(田村市)

### 大型風力発電タワー用ボルトの実用化開発



東北ネジ製造㈱は、阿武隈山地・沿岸部など浜通り地域等で250基以上の風車の建設が計画されているプロジェクトへの参入に向け、大型風力発電タワー用ボルトの実用化開発に取り組んでいます。県内はもとより国内のタワー用ボルトの供給拠点として、風車メーカーからも大きな期待が寄せられています。

### いわきバッテリーバレーフェスタ



バッテリーを活用した先進都市実現と関連産業の集積に向けた取組をPRし、地域産業の振興に弾みをつけるとともに、子どもたちのものづくりへの興味・関心を育むため、次世代自動車の試乗や、再生可能エネルギーや水素の利活用を体験できるイベントを毎年実施しています。

### 不燃系廃棄物の再資源化事業



地元を中心とする民間企業8社が協同し、2018年10月に設立された櫛相双スマートカンパニーでは、2020年に稼働を開始する予定のリサイクル施設を大熊町に建設中です。将来的には、先進的な技術実証や事業化も検討し、産業基盤の充実による地域貢献を目指しています。



## ICTやロボット技術等を活用した 農林水産業の再生 農林水産業

ICTやロボット技術等の開発・実証を進めるとともに、これらの先端技術を取り入れた先進的な農林水産業を全国に先駆けて実施し、浜通り地域等の農林水産業の復興・再生を進めています。

### 周年栽培・周年出荷に取り組む

#### 複合環境制御施設によるイチゴ栽培

大熊町では、省力化、効率化を図るための先端技術を取り入れたイチゴの栽培施設を整備しました。㈱ネクサスファームおおくまが周年栽培・周年出荷に取り組んでおり、2019年8月に初出荷されました。



### 取組事例紹介

#### 先端技術を活用した農産物生産と規模拡大

㈱紅梅夢ファームは、農業分野の労働力確保が難しい中、ロボットトラクタや食味・収量測定コンバイン、ドローン等の先端技術を取り入れて経営の効率化を図り、高レベルで均質な農産物の生産と規模拡大をかねる技術体系の実証に取り組んでいます。



#### 地域と連携した企業の農業参入

檜葉町では、㈱福島しろはとファームが新規参入し、大規模なさつまいも栽培に取り組んでいます。今後は、長期貯蔵のための施設整備等が予定されており、更なる拡大が期待されます。



### 取組事例紹介

#### 水産海洋研究センター開所



いわき市に水産海洋研究センターを整備し、2019年7月に開所しました。県産水産物の高鮮度化や加工技術の開発、放射性物質対策等の試験研究に取り組んでいます。

#### ICT技術を活用した 和牛の肉質診断技術の開発

県産和牛の価格向上と肥育コストの削減のため、全国に先駆けて、成育途中でも高い精度で枝肉の肉質が診断できる技術の開発に取り組んでいます。



#### 苗木植栽ロボットの開発・実証

津波で被害を受けた海岸防災林を再生するため、苗木植栽ロボットを開発しました。今後は、海岸防災林の造成作業への活用を進めていきます。



#### 新たな花き栽培

川俣町では、近畿大学と連携して、土壌の代わりにポリエステル煤地と液体肥料を活用してアンズリウムの栽培を行っています。2019年8月より本格的に出荷が再開されました。



#### 見て触れて体験できる展示会の開催

浜通り地域等の農林漁業者や就農に興味のある学生等を対象に、農林水産業の取組に関するセミナーや、最先端技術を実際に見て触れて体験できるフェアを開催しています。



#### 企業の農業参入支援

民間企業の農業参入を推進するため、2019年11月に南相馬市で新規参入を検討している企業向けの現地見学会を開催しました。





技術開発支援を通じ  
企業の販路を開拓  
**医療関連**

高齢化や医療・介護人材の不足が進む  
浜通り地域等において、医療関連産業の  
集積を図るとともに、企業等の新規参入  
を促進しています。



“空飛ぶクルマ”の実証や  
関連企業を誘致  
**航空宇宙**

航空宇宙産業の育成・集積に向けて、参入  
する企業の支援や産業を担う人材育成に取り  
組んでいます。

航空宇宙産業に挑戦する人材を育てる

**ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2019**

次世代を担う子どもたちに夢を与えると同時に科学への  
関心を高め、将来の航空宇宙産業やふくしまの復興・  
再生へ挑戦する人材を育てています。2019年度のフェスタ  
では、県内企業が機器の開発に大きく関わっている  
はやぶさ2の実物大模型を展示しました。

取組事例紹介

**蛍光浸透探傷装置導入セミナー開催**

航空機部品の検査の  
ために広く使用される  
浸透探傷検査につい  
て、その基礎的な知  
識を身につけるため  
、検査の概要に関する  
講義及び実際の使用  
方法のデモンストレ  
ーションを行いました。



取組事例紹介

**医療関連分野の販路開拓支援**

医療機関・高齢福祉施設等の現場ニーズを反映させ、導入につな  
がる製品への改良など、導入に向けた取組を支援。原発事故の影響  
により高齢化の進行  
や人手不足等の課題を  
抱える浜通り地域等  
における導入までのモデル  
事業を創設し、医療  
関連産業の集積につな  
がっています。



**メディカルクリエイションふくしま**

医療機器関連メーカーと地域製造業・大学との技術交流の場とし  
て、地域製造業が得意とする製造技術の展示と医療機器関連メ  
ーカーによる最新医療機  
器の展示を同時に行  
い、研究開発担当者・  
エンジニア間の活発な  
技術交流によって、新  
技術開発、新商品の創  
出を促進しています。



対 談

令和元年10月に発生し各地で大きな被害をもたらした令和  
元年東日本台風(台風19号)。南相馬市でも土砂崩れや橋の  
崩壊、堤防の決壊、断水などの被害が相次ぎました。南相馬  
市から被害調査の協力要請があり、テラ・ラボ、ワインデング  
福島など、6社でチームを結成してドローンによる被害調査  
をいち早く実施。南相馬市災害対策本部会議で被害の  
全容を速やかに報告し、その後の災害復旧に役立て  
ることができた背景について伺いました。

災害調査に役立つドローンの技術とノウハウが1つに

清信 南相馬市で製造業を営むわが社は、幸いにも台風19  
号による被災は免れたのですが、地元の人たちが被災して  
困っている状況で、地元企業としての責任感  
から急ぎよ社員に声を  
掛け、ドローンによる空  
撮に協力させていただ  
きました。

松浦 私は、地元の愛  
知から南相馬へ移動中  
でしたが、真っ先に参  
加しなければと思いま  
した。同時多発的に起  
こる被害映像の解析や  
情報共有の進め方につ  
いて、自分たちが積み  
重ねてきた知見を生か  
せるのではないかと思  
いました。

清信 テラ・ラボさん  
のように、十分な実績を  
お持ちの方たちと台風  
の災害調査を通じて地  
域貢献できたことは、わ  
が社として初の経験で  
した。ドローンは、減災  
やさまざまな災害の対策に生かされると実感して興味もさらに  
膨らんでいます。

松浦 今回の被害調査を振り返ると、6社が集まった時に各  
社ともドローンの操作も撮影方法も分かっていて、後は映像  
データをどうまとめるかだけだったので、行政を始めとしてそ  
の基盤ができていたことに感動を覚えました。



優れた災害対応を国内外へ発信  
南相馬市から浜通りの産業復興を



株式会社テラ・ラボ  
代表取締役

**松浦 孝英さん**  
TAKAHIDE MATSUURA

有限会社ワインデング福島  
代表取締役

**清信 正幸さん**  
MASAYUKI KIYONOBU

ことです。福島ロボットテストフィールドは、災害をさまざまな  
側面から復元していて、真の意味で防災をトレーニングでき  
る施設になり得えます。全国に1700近くある自治体の消防や  
危機対策部門の人々がここで学び、そして各自自治体に持ち帰  
り現場で生かしていくことで、一つの産業になり得るだろうと  
考えています。

清信 今回の業務を通じて、いざ  
災害が起こった時にロボットを活  
用するためには、常日頃の業務で使  
い慣れた技術が災害時に有効に機  
能することが重要だと感じました。  
松浦 私たちが最も重視してい  
たのが情報解析してアップロード  
するスピードです。1人でも多くの  
人を避難誘導していくのには、ド  
ローンのオペレーションだけでは



空撮を行った6社。(株)ゆめサポート南相馬、(有)ワインデング福島、  
(株)eロボティクス福島、(株)日本環境調査研究所、(株)テラ・ラボ、  
(公財)福島イノベーション・コスト構想推進機構

なく、災害現場の状  
況に合わせて解析  
作業を進めることが  
重要です。また、避難  
を発令する場合は、  
被害状況を詳細に  
把握することも大切  
だと感じています。



災害対策本部会議で被害を報告

災害をいかに最小限にするか世界に発信していく使命

清信 私は、東日本大震災が起きた時は南相馬市にいて、そ  
の後避難を余儀なくさ  
れました。自然災害は  
阻止しようがありません  
から、福島ロボットテ  
ストフィールドを拠点  
にして、災害が起こった  
後の被害をいかに最小  
限にするか、ここに住む  
者として世界へ発信し  
ていく使命があると思  
います。世界中の人々  
に南相馬市を訪れてい  
ただき、被災当時のこ  
とや今後起こり得る災  
害にどう対応していく  
かを学んでいただく。そ  
のためにも、地元市民  
が一丸となれる施設に  
していくことが重要です。  
松浦 私が感じている  
のは、南相馬市で今回  
実現できたことは、非  
常に大きな意味を持った  
社会実験だったとい



企業誘致と地域内外企業の事業化を支援

## 産業集積

浜通り地域等における新たな産業集積の実現と既存産業の復興再生に向けて、産業団地の整備や企業立地の促進を図るとともに、進出企業等と地元企業の交流、ビジネスマッチングを促進しています。

### 多くの企業が浜通り地域等に進出



#### 浅野燃糸(本社:岐阜県)

高吸水性タオル「エアーかおる」でタオル業界が注目する企業です。新ブランド「スーパーゼロ双葉」を立ち上げ、本社工場の2倍超となる月4万キログラムの生産を目指します。併設の店舗などで販売も行います(令和4年7月操業開始予定)。



#### (株)アイリスプロダクト(本社:宮城県)

南相馬市復興工業団地に、人工芝、脱酸薬剤、建材用平板・波板等の集合型工場建設を計画しています(令和4年3月操業開始予定)。



#### 豊通リチウム(本社:檜葉町)

檜葉南工業団地に車載用2次電池等に用いられる水酸化リチウム精製工場建設を計画しています(令和3年上期の操業開始予定)。



#### (株)一路(本社:宮城県)

浪江町藤橋産業団地に本社機能と委託工場を移転し、土木資材の物流拠点となる倉庫業及び3Dプリンターを使った遮水シートの製造を計画しています(令和2年春操業開始予定)。



#### (株)リセラ(本社:岡山県)

川内村田ノ入工業団地にスポーツウェア等の被服製造工場を新設しました(平成29年12月より操業開始)。



#### (株)片山製作所(本社:岐阜県)

富岡産業団地に電気自動車へ搭載するパワー半導体の冷却用ヒートシンクの製造工場建設を計画しています(令和3年春操業開始予定)。

### 取組事例紹介

#### 企業誘致に向けた取組



浜通り地域等の優れた立地環境をPRする企業立地セミナーを東京都、名古屋市、大阪市で開催しています。また、進出検討企業を対象とした産業団地、商業施設、医療機関等を視察するツアーも実施しています。

#### 「福島イノベ倶楽部」設立

異業種間の連携、地域間の連携、地元企業と進出企業との連携による新事業の創出や取引の拡大を目指す異業種交流のための場として「福島イノベ倶楽部」を2020年2月に設立しました。



#### イノベーション創出プラットフォーム事業

全国から革新的な企業等呼び込み、プロジェクトを盛り起こすためのイベント、アイデアを具現化するための補助、専門家を活用した伴走支援など、案件の発掘段階から事業化までの円滑な支援により、新たなビジネスを創出します。



#### 新たな取引先との出会いの創出



浜通り地域等の企業等が、新たに進出した(しようとする)企業や研究開発を進める企業等と直接商談できる機会として「ふくしまみらいビジネス交流会」を開催しているほか、廃炉産業への参入を希望する企業向けのマッチング会等を開催しています。

#### 事業化を目指す事業者を伴走支援



「地域復興実用化開発等促進事業」の採択企業(約100社)等に対し、販売戦略の作成、市場調査、戦略的・知的財産保護、マッチング、資金確保等、各企業等の課題の解決に向けた支援を実施しています。

#### 地域復興実用化開発等促進事業



福島イノベーション・コースト構想の重点分野(ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、廃炉、航空宇宙)について、地元企業との連携等により地域振興に資する実用化開発等を支援しています。

実現に向けた取組1



産業団地の整備や企業立地の促進

# 産業集積

浜通り地域等15市町村における新たな産業集積の実現に向けて、産業団地の整備や企業立地の促進を図っています。

## 企業進出事例

### いわき市 140件

- 1 いわき四倉中核工業団地第1期区域** 33.6ha  
 ◆根本興産(株) (いわき市/セメント・同製品製造業)  
 ◆(株)成栄 (いわき市/建設用金属製品製造業)  
 ◆(株)金子製作所 (埼玉県/医療用機械器具製造業)  
 ◆(有)小野川製作所 (いわき市/電子部品・デバイス・電子回路製造業)  
 ◆メルテックいわき(株) (いわき市/窯業・土石製品製造業)  
 ◆会川鉄工(株) (いわき市/金属製品製造業)
- 2 いわき四倉中核工業団地第2期区域** 17ha  
 ◆東新工業(株) (横浜市/めっき加工業)  
 ◆(株)ニッチュー(東京都/金属加工機械製造業)



### 田村市 25件

- 6 田村市産業団地** 12.5ha  
 ◆(株)オプトネクス (田村市/光学機械器具・レンズ製造業)
- 7 田村西部工業団地** 64.1ha  
 ◆(株)デンソー福島 (田村市/輸送用機械器具製造業) (株)デンソー電機  
 ◆(株)トッキョウ (北海道/道路貨物運送業)
- 8 (仮称)田村市東部産業団地** 21.0ha  
 令和3年度供用予定



### 川内村 7件

- 26 田ノ入工業団地** 7.0ha  
 ◆(株)リセラ (岡山県/繊維工業)  
 ◆大橋機産(株) (埼玉県/建設機械・鉱山機械製造業)
- その他のエリア  
 ◆(株)菊池製作所 (東京都/金属製品製造業) (株)リセラ川内工場  
 ◆コドモエナジー(株) (大阪府/窯業・土石製品製造業)  
 ◆ケミカル川内(株)/さつき(株) (川内村/窯業・土石製品製造業)



### 川俣町 8件

- 12 川俣西部工業団地** 7.7ha  
 ◆ミツフジ(株) (京都府/繊維工業)
- 13 羽田産業団地** 1.9ha
- 14 飯坂工業団地** 3.2ha  
 ◆(株)日ビス福島製造所 (川俣町/輸送用機械器具製造業)
- 15 中山工業団地** 3.5ha
- 16 山木屋工業団地** 1ha
- その他のエリア  
 ◆川俣精機(株) (川俣町/電気機械器具製造業)  
 ◆(有)杉田屋電建工業 (川俣町/電気機械器具製造業)



### 新地町 7件

- 36 新地南工業団地** 8.0ha  
 ◆(株)リード (神奈川県/生産用機械器具製造業)
- 37 駒ヶ嶺工業用地** 2.0ha  
 その他のエリア  
 ◆石油資源開発(株) (東京都/ガス業)



### 相馬市 33件

- 3 相馬中核工業団地西地区** 68.5ha  
 ◆(株)IH1 (東京都/輸送用機械器具製造業)  
 ◆オリエンタルモーター(株) (東京都/電気機械器具製造業)
- 4 相馬中核工業団地東地区** 288.4ha  
 ◆相馬エネルギーサポート(株) (東京都/倉庫業)  
 ◆(株)ADEKA(東京都/化学工業製品製造業)
- 5 相馬南第二工業団地** 5.5ha  
 その他のエリア  
 ◆(株)アイ・テック (静岡県/建築材料、鉱物・金属材料等卸売業)



### 葛尾村 2件

- 34 葛尾村産業団地** 2.8ha  
 ◆金泉ニット(株) (愛知県/繊維工業)
- 35 葛尾村東部産業団地** 2.9ha  
 令和2年度供用予定  
 ◆福島パルムシー(株) (葛尾村/木材・木製品製造業)



### 南相馬市 58件

- 9 信田沢工業団地** 4.6ha
- 10 南相馬市復興工業団地** 12.4ha  
 ◆ロボコム・アンド・エフエicom(株) (東京都/生産用機械・関連部品製造業)  
 ◆(株)アイリスプロダクト(宮城県/プラスチック製品製造業)
- 11 下太田工業団地** 6.1ha  
 ◆(株)井部製作所 (東京都/金属成形材料製品製造業)  
 ◆(有)ワインデンフ福島 (南相馬市/電気機械器具製造業)
- その他のエリア  
 ◆三和化学工業(株) (東京都/無機化学工業製品製造業)  
 ◆東北アクセス(株) (南相馬市/道路旅客運送業)



### 浪江町 15件

- 30 浪江町北産業団地** 3.7ha
- 31 浪江町南産業団地** 19.3ha
- 32 浪江町棚塩産業団地** 38.5ha
- 33 浪江町藤橋産業団地** 6.7ha  
 ◆フォーアールエナジー(株) (神奈川県/電気機械器具製造業)  
 ◆静光産業(株) (大阪府/油加工製品・石けん・合成洗剤・界面活性剤・塗料製造業)  
 ◆(株)一路(宮城県/倉庫業)
- その他のエリア  
 ◆相双生コンクリート(協) (檜杵町/窯業・土石製品製造業)



### 大熊町 2件

- 27 大熊西工業団地** 12.2ha  
 完成時期未定
- 28 大熊中央産業拠点** 9ha  
 令和4年度供用予定



### 富岡町 10件

- 23 富岡産業団地** 21.9ha  
 令和2年度供用予定  
 ◆(株)片山製作所(岐阜県/非鉄金属製造業)
- 24 富岡工業団地** 24.1ha  
 ◆(株)アトックス (東京都/倉庫業)  
 ◆(株)万象ホールディングス (東京都/窯業・土石製品製造業)
- 25 富岡第二工業団地** 6.1ha  
 その他のエリア  
 ◆(株)蓬人館 (いわき市/宿泊業)



### 檜葉町 23件

- 20 竜田駅東側団地** 6.2ha
- 21 檜葉北産業団地** 15.7ha  
 ◆アンフィニ(株) (大阪府/電気機械器具製造業)  
 ◆(株)エヌビーエス(東京都/ガラス・同製品製造業)
- 22 檜葉南工業団地** 33.4ha  
 ◆豊通リチウム(株) (檜葉町/無機化学工業製品製造業)  
 ◆住鉱エナジーマテリアル(株) (東京都/無機化学工業製品製造業)
- その他のエリア  
 ◆(有)ウインストラベル (檜葉町/道路旅客運送業)



### 広野町 21件

- 17 広野工業団地** 3.5ha  
 ◆富士フィルム和光純業(株) (神奈川県/医薬品製造業)  
 ◆(株)レイス (東京都/化学工業)
- 18 広野駅東側産業団地** 5ha  
 ◆(株)大田測量設計 (広野町/情報サービス業)  
 ◆ひろのプログレス(合) (東京都/宿泊業)
- 19 広野町東町産業団地** 4.8ha  
 令和4年度供用予定



### 飯館村 8件

- その他のエリア  
 ◆(株)菊池製作所 (東京都/金属製品製造業)  
 ◆(有)斉藤製作所 (飯館村/生産用機械器具製造業)  
 ◆(株)ハヤシ製作所 (飯館村/金属製品製造業)



### 双葉町 4件

- 29 中野地区復興産業拠点** 34.5ha  
 ◆双葉中央アスコン(企業共同体) (双葉町/舗装材料製造業)  
 ◆(株)アルメディア (東京都/炭素・黒鉛製品製造業)  
 ◆浅野燃系(株) (岐阜県/ねん糸製造業)



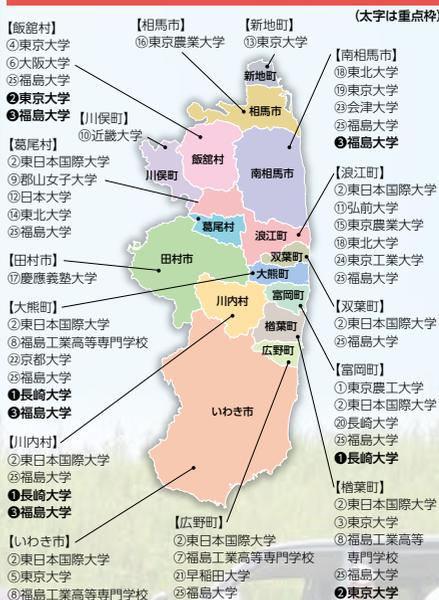
※市町村名の隣の件数は、企業立地補助金の採択件数(2019年12月末現在)  
 ※立地企業は主要な事例を記載



# 浜通り地域等の未来を担う若い力を育てる 教育・人材育成

大学等による教育研究活動の活性化に向けた取組を進めるとともに、小中学校、高等学校における企業や高等教育機関等と連携したキャリア教育を実施し、浜通り地域等の復興の核となる高い志を持った若い力を育成していきます。

## 2019年度学術研究活動支援事業(大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業)採択大学一覧



### 大学と地域の連携

#### 東京農業大学 × 相馬市

東京農業大学は、相馬市などで放射性物質汚染からの環境回復や、農産物のマーケティング支援事業等を展開しています。また、浜通り地域等の高校生を対象としたサマースクールも実施しています(写真:サマースクールにおいて津波で堆積した土壌の断面調査を行っている様子)。

## 取組事例紹介

### 大学研究

#### 大学等の学術研究活動を支援

#### 「復興知」事業

全国の大学が有する福島復興に資する知を、浜通り地域等に誘導・集積するため、地域内で教育研究活動を行う大学等を支援する「復興知」事業を実施しています。2018年度は20件、2019年度は25件を採択しました。また、従来の公募に加え、2019年10月から新たに設けた「重点枠」において、3件を採択しました。

#### 福島大学 × 南相馬市他

福島大学は、県内外の5大学・高専と連携し、「復興農学会」の設立を目指しています(写真:シンポジウムにおけるパネルディスカッションの様子)。



#### 早稲田大学 × 広野町

大学関係者や地域住民・高校生等による対話の場「ふくしま学(楽)会」を開催し、福島復興に向けた具体的な提案づくりに取り組んでいます。



#### 浜通り地域等の課題とその解決策について議論

#### 福島復興学ワークショップ

「復興知」事業では、教育研究活動のPRや、大学・研究者間の相互交流・情報交換等を目的に「福島復興学ワークショップ」を開催しています(写真は、2019年6月29日開催(富岡町)の様子)。



### 高等学校・小中学校

#### 企業や高等教育機関との連携プログラム

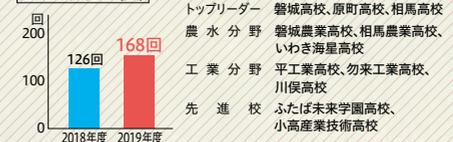
#### イノベーション人材育成

高等学校では、構想を担う高い志を持つ人材育成のため、企業や高等教育機関等と連携して、最新技術の動向や課題解決の取組等を学ぶ講義や実地研修等を行う実践的なプログラム等を実施しています。

#### [高等学校の取組]

イノベ対象校\*(11校)では、企業や研究機関等と連携した視察・出前講座等を実施しています。また、「会津・中通り地域」の専門学校(18校)も広域連携校として、イノベーションに関わる取組を実践しています。

#### 連携実績総数(回)



#### 平工業高校 × 楢葉遠隔技術開発センター

廃炉作業における遠隔操作機器開発と実証を進める楢葉遠隔技術開発センターと連携し、研究機関等の技術力の高さを学んでいます。



#### 成果発表会

イノベ対象校及び広域連携校の高校生が、社会の仕組みを変える先端技術や独創的アイデアのもとに研究・体験した取組を、生徒同士の交流により共有し、成果の全体的な普及を図っています。



#### イノベ人材の裾野拡大

#### 地域への“思いを育む”教育プログラム

双葉郡8町村の小中学校では、地域の「ひと」、「もの」、「こと」を題材にした探求的な学習『ふるさと創造学』を通じて、地域への思いや自分の未来、地域の未来を切り拓く力を育んでいます。



#### [小中学校の取組]

浜通りだけでなく、中通り、会津といった県内の小中学校(16校)でイノベ構想に関わる最先端技術やものづくり等を学んでいます。

#### 事例1 農業分野(バイオテクノロジー)

二本松第三中学校×新田教授(福島大学・復興知)  
・お米の美味しさを科学的に証明

#### 事例2 エネルギー分野

広野中学校×(株)タジマモーターコーポレーション  
・電気自動車における未来

### 実現に向けた取組3



## 地域と連携して新たな魅力を創造 交流人口の拡大

避難により人口が減少した浜通り地域等の交流人口の拡大や地域と連携した新たな魅力創造などに取り組んでいます。

### 実現に向けた取組4



## 構想の認知度アップで参画を促進 情報発信

構想の認知度を向上させ、参画を促進するためのさまざまな情報発信を行っています。

### 取組事例紹介

#### 見える化計画展開中



見える化キャラバン



見える化セミナー

住民の方々に構想を身近に感じていただくため、浜通り地域等のイベントに参加し、先端技術のデモンストレーションやセミナーを行い、理解を深めていただく取組を進めています。

#### 構想を発信するモニメントの設置

構想を誰にでも楽しく理解してもらえるよう、来訪者や地域住民が訪れる機会が多い施設に目を引くデザインのモニメントを設置し、気軽に構想に触れていただくとともに、構想の情報をわかりやすく発信し、関連施設に誘導することにより、交流の拡大を促進しています。



#### 地元による提案事業

構想に絡めた浜通り地域等の特徴や持ち味の掘り起しや磨き上げを、地域団体等と連携して行うことで、地元住民が一層地域に魅力を感じるとともに、それらの魅力を地域内外に発信し、交流を促進するためのさまざまな事業を展開しています。(写真左:富岡町産の米を使って作った日本酒「萌(きざし)」,写真右:浜通り地域等で活躍する人「イノベびと」への取材)。



#### 浜通り地域等を視察するツアー

来訪者のニーズに合わせたオーダーメイド視察ツアーや、構想に関連するテーマを設定したモデルツアーを実施し、地域や構想についての理解の深化を進めています。(写真:福島天然ガス発電所(新地町)を視察)

### 取組事例紹介

#### 構想を総合的に発信するシンポジウム

構想の進捗状況や復興に対する波及効果等について、幅広い層への認知を促進するとともに、本構想への理解を深化させることを目的としてシンポジウムを開催しています。



#### 各種情報発信

県内外のイベントにおけるPR活動やさまざまな講演、WEB、SNS等により、構想を多面的に発信しています。





複合災害の記録と教訓を将来へ引き継ぐ

## 情報発信

(東日本大震災・原子力災害伝承館)

福島県が経験した地震・津波及び原子力災害という未曾有の複合災害からの経験と教訓を後世に継承し世界と共有する施設「東日本大震災・原子力災害伝承館」。原子力災害を中心とした資料を収集・保存し、展示、教育・研究・研修に生かし、未来を考えます。

### 展示エリア (イメージ)

震災前の地域の様子から、災害の発生、そして復興に向け取り組む姿などについて、蓄積された語り部の生の声により伝えます。



### 複合災害を知る、学ぶ



震災前から震災当時、現在を通じて、大規模災害の恐ろしさや復興の過程を学ぶことができます。

### 複合災害の話を聞く、共感する



災害を経験した方々の生の声を聞き、当時の追体験が出来ます。

### 被災地へ行く、体感する



津波や原子力災害で被災した施設や復興の状況を見て、学ぶためのツアーを行います。

### 複合災害を考える、教訓を得る



震災・防災に関係した様々な研修を提供します。

### 東日本大震災・原子力災害伝承館 (双葉町)イメージパース



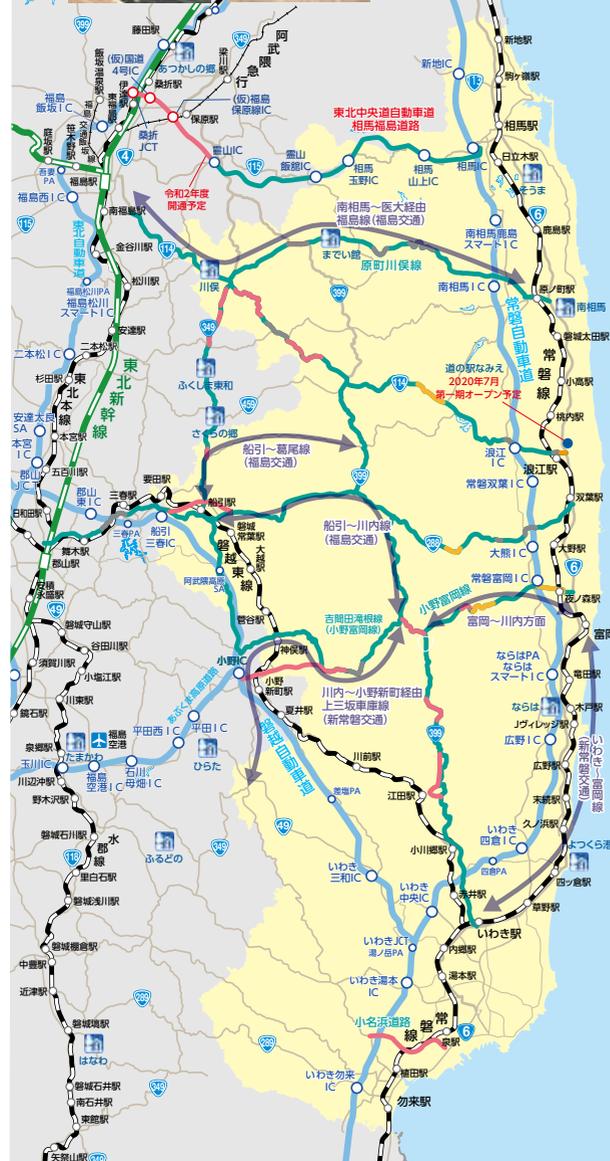
2020年夏頃オープン (予定)



安心な暮らしに必要な環境を整備

## 生活環境の整備

東北中央自動車道、常磐自動車道を始めとする公共インフラ等の充実強化を図り、生活環境の整備を着実に進めています。



## 整備が進む公共インフラ

### 東北中央自動車道

- 平成29年 3月 相馬山上IC—相馬玉野IC間 開通
- 平成29年11月 福島大笹生IC—米沢北IC間 開通
- 平成30年 3月 相馬玉野IC—霊山IC間 開通
- 令和元年12月 相馬IC—相馬山上IC間 開通



福島民報社提供

- 令和2年夏まで 霊山IC—(仮)国道4号IC間 開通(予定)
- 令和2年度末 (仮)国道4号IC—桑折JCT間 開通(予定)

### 常磐自動車道

国では、いわき中央IC～広野IC間の4車線化に着手し、令和2年度末までの完成を目指します。

- 平成31年 3月 ならばスマートIC 開通
- 平成31年 3月 大熊IC 開通
- 令和2年 3月 常磐双葉IC 開通



福島民友新聞社提供

### JR常磐線

- 平成29年 4月 浪江駅-小高駅間 運転再開
- 平成29年10月 竜田駅-富岡駅間 運転再開
- 令和2年 3月 富岡駅-浪江駅間 運転再開により 全線開通



### 「福島ロボットテストフィールド⇄福島」開通!

2020年1月から、東北アクセス(株)が運行する「南相馬⇄福島」線の一部のバスが、福島ロボットテストフィールドに乗り入れました。福島方面から福島ロボットテストフィールドへのアクセスが便利になりました。



つど つく かな  
集う、創る、叶える、ふくしまで。

# 福島イノベーション・コースト構想推進機構

国家プロジェクトである「福島イノベーション・コースト構想」を推進する中核的な機関として、福島県が設立した「福島イノベーション・コースト構想推進機構」。私たちは福島復興再生特別措置法の「重点推進計画」に基づき、みなさまとともにさまざまな取組を行い世界に誇れるふくしまの未来を実現していきます。

## 産業集積・ビジネスマッチング

- 浜通り地域等への企業誘致
- 進出企業と地元企業とのマッチング
- 企業の新ビジネスの立ち上げ支援
- 民間企業等の農業参入支援



ふくしまみらいビジネス交流会



企業立地セミナー

## 拠点施設の管理運営

- 福島ロボットテストフィールドの運営受託
- 東日本大震災・原子力災害伝承館の運営受託
- 拠点の利活用について県内外にPR



福島ロボットテストフィールド



東日本大震災・原子力災害伝承館

## 教育・人材育成

- 産業界及び研究機関等と連携した高等学校等での教育の実施支援
- 市町村と連携した大学等の教育・研究活動支援



大学と地域の連携  
(東京大×新地町)

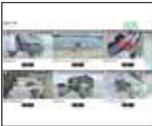


イノベーション人材育成  
(相馬高校×日本大学工学部)

推進機構の  
主な取組

## 情報発信

- 県民等への構想のわかりやすい情報発信
- 県外からの呼び込みに向けた構想の魅力発信



構想WEBサイト



シンポジウム

## 交流人口の拡大

- 浜通り地域等の各拠点への来訪者呼び込み
- 交流人口の拡大に向けた交通環境の改善



浜通り地域等を視察するツアー



見える化キャラバン

## 福島イノベーション・コースト構想の経過

### 平成26(2014)年6月

- 「福島イノベーション・コースト構想研究会」報告書取りまとめ
- 「経済財政運営と改革の基本方針2014(骨太の方針)」で構想が初めて明記

### 平成29(2017)年5月

- 「福島復興再生特別措置法」が改正、構想が法定化
- 福島県が「福島イノベーション・コースト構想推進本部」設置

### 平成29(2017)年7月

- 一般財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構設立
- 第1回「福島イノベーション・コースト構想関係閣僚会議」(総理出席)

### 平成30(2018)年4月

- 福島復興再生特別措置法「重点推進計画」の内閣総理大臣認定

### 平成31(2019)年1月

- 福島イノベーション・コースト構想推進機構 公益財団法人に移行

### 令和元(2019)年12月

- 「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」取りまとめ

### 令和2(2020)年3月

- 福島県が福島復興再生特別措置法「重点推進計画」の変更案を作成



公益財団法人  
福島イノベーション・コースト構想推進機構

福島イノベーション

〒960-8043 福島県福島市中町1-19 中町ビル6階 <https://www.fipo.or.jp>

公式Web



Instagram



Facebook



Hama Tech Channel



2020.3 協力：福島県・復興庁・経済産業省

※本パンフレット掲載の情報は、2020年3月25日現在のものです。